

令和6年度
学生委員会活動報告

新入生歓迎会

イベント概要

4月5日（金）14:40～16:00に2104教室にて新入生を対象にした新入生オリエンテーションを対面開催した。

本イベントの目的は、國學院大學での大学生活を知ってもらうことと、そして新生活に向けた新しい友達を作る場として機会を設けることである。

参加者の人数は推定500人と経済学部の新入生のほとんどが参加し、会場は大盛況であった。



本イベントを通して、9割以上の新入生が本会に満足したと回答していた。学生委員会としての準備や運営が上手くできていたことや、FAの方々の手厚いサポートのおかげである。ただ、参加者数の規模が想像より大きかったため誘導に時間がかかってしまった。この辺をもう少し改善して来年につなげたい。



後記（感想）

今年もクラスの集いの後に本会が行われたが、例年よりも多くの新入生に参加してもらえた。各コンテンツで新入生同士での、関りが持てる仕組みを作ったことで、仲を深められるような機会にできたと感じている。また、新たにInstagramを使ったクイズコンテンツを試みた。改善点もあるが、学生委員会の活動の周知を含んだよい取り組みだと感じている。来年も楽しい機会を作れるように頑張ってきたい。

（経営学科3年 竹仲夢人）

ゼミ個別ブース相談会・フェア

～イベント概要～

5月8日(水)12:10-16:30 および5月14日(火)10:30-16:30に第1回目、6月5日(水)11:15-15:15に第2回目の、経済学部2年生を対象とした「ゼミ個別ブース相談会・フェア」を開催した。当日はメインで5号館を使用し、他に1・2号館を使用し昨年に引き続き対面開催となった。

本イベントの目的は、ゼミ選びをしている2年生に対して、ゼミ生やゼミの先生とコミュニケーションを取るきっかけを作ることである。

5月8日(水)には22ゼミ、5月14日(火)には23ゼミが参加した。2年生の参加者は、ブースは240人ほど、フェアは80人ほど参加してくれた。



本イベントを通して、昨年度と同様に立て看板やチラシの告知を行った。そのため、たくさんの方が参加された。しかし、フェアで少し困っている学生が見られたので、もう少し明確な指示を伝えておくべきだと感じた。



～後記(感想)～

運営側や私の指示が曖昧であったこともあり、困っている様子も見られた。昨年度の反省を活かし、2年生の授業がある日を中心に行なった結果、参加者は多く集まってくれたと思う。ゼミ生との連絡を強化していきたい、来年度に活かしていきたいと思う。

(経済学科3年 馬詰俊亮)

絆づくりプロジェクト

～イベント概要～

2024年10月13日(日)、1103教室にて「絆づくりプロジェクト」を開催した。本イベントは、経済学部という共通点を持った卒業生を招き、在学生在が就職活動やキャリアについて相談できる機会を提供することを目的としている。

昨年度は一時休止していたイベントであったが、委員会メンバーの増加やメンバーからの再開の提案を受け、再び実現する運びとなった。

当日は、学生53名とOBOG11名が参加し、学生が話を聞きたいOBOGのもとを回れる座談会形式で進行した。さらに、相談会後には院友経済会との共催で懇親会も行い盛況だった。



相談会(上)と懇親会(下)の様子

学生参加者へのアンケートでは、回答者全員が「非常に満足」または「満足」と評価した。「何をすべきか、何がしたいか考えるきっかけになった」や「様々な業界の話を知ることができ、視野が広がった」等の意見が寄せられ、イベントの有益性を実感した。

【仕事・キャリア関連】

職種について(選んだ理由、特徴、やりがい、配属、転勤)	61.5%
業務について (業務内容、1日の流れ、繁忙期、意識)	46.2%
業界内の企業の立ち位置について (企業の強み、課題、将来性)	38.5%
【就活関連】	
今の業種・職種を選んだ決め手について	61.5%
就活時にやっておいた方が良かったことについて	61.5%
試験について(SPIなど)	30.8%

↑参加者アンケート「OBOGに相談できて良かったこと」
(複数回答)

～後記(感想)～

今回対面での開催となり、OBOGと学生がより深くコミュニケーションを取ることができたことにより、絆づくりプロジェクトの目的に即した盛り上がりを感じた。

来年に向けては、参加者数の増加を目指したい。より幅広い層に情報が伝わる告知方法を模索することで、さらに活発なイベントにしていきたい。

(経営学科3年 鈴木羽奈)

第1回 E-Tour (9月21日開催)

(イベントの概要)

2024年9月21日(土)14:30~17:30、渋谷キャンパスにて2024年度初回となるE-Tourを開催した。

本イベントの目的は、「高校生に楽しく、学びのある時間を提供し、國學院大學経済学部に入学したいと思ってもらうこと」であり、参加者は高校生34名と保護者数名だった。

イベント内では学部・学科の紹介、アイスブレイク、キャンパスツアーや本学部の特徴であるアクティブ・ラーニング型授業を体験する機会を設けた。

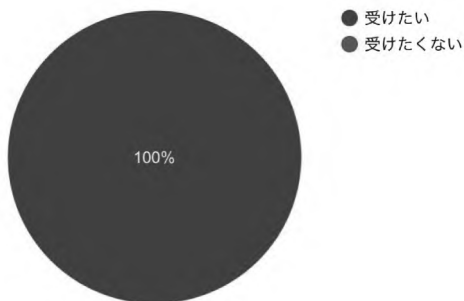


(周りの反応)

終始学生スタッフや同じグループの高校生との会話が弾んでおり、特に模擬授業は非常に盛り上がった。参加後アンケートでの「アクティブラーニング型の授業をもっと受けてみたいですか」という質問では参加者の100%が「受けない」と回答した。

アクティブラーニング型の授業をもっと受けてみたいですか

34件の回答



後記 (感想)

学生委員会に加入して間もない学生も様々な役割を担ってくれたり、積極的に高校生とコミュニケーションを取ってくれたことがイベントの成功という結果に繋がったと感じている。

(経済学科3年 中嶋彩優)

第2回 E-Tour (12月14日開催)

～イベント概要～

12月14日(土)13:00～16:00に2024年度第2回のE-Tourを対面で実施した。対象は系列3高校(國學院高校・國學院久我山高校・國學院大學栃木高校)の3年生である。コンテンツ内容は学部紹介、学科・アクティブラーニング型授業紹介、模擬授業、キャンパスツアーなどを行った。

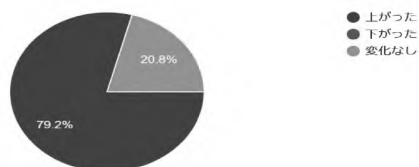
本イベントの目的は、高校生にE-Tourを通じて、高校生に「主体的に活動する大学生の姿を見てもらい、大学入学へのモチベーションを高めてもらうこと」である。

当日は75名の高校生が参加してくれた。また、たくさんの高校生が楽しみながらイベントに参加していた。



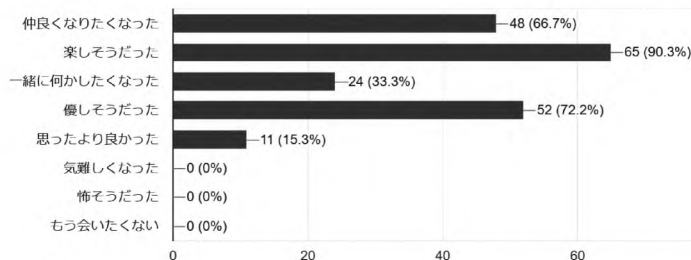
定刻通りに円滑にイベントを進行することができた。例年よりも多くの参加者が集まり大変なところもあったが迅速に対応することができ、さらに、実施後のアンケートの結果、非常に高い満足度を得ることができた。

Q14.参加前後で國學院大学への志望度はどのように変化しましたか
72件の回答



Q17.大学生への印象はいかがでしたか

72件の回答



～後記(感想)～

今年度は第3回E-Tourと開催日時が近かったこともあり準備期間が短く、人数も大幅に増え、また、2年生ながらリーダーという立場に立ち、苦戦したことも多くあった。しかし、運営スタッフの協力もありイベントを成功に終えることができた。今回の経験を糧に、来年度はより良いE-Tourを開催できることを確信している。

(経営学科2年 田口颯汰)

第3回 E-Tour (12月21日開催)

イベントの概要

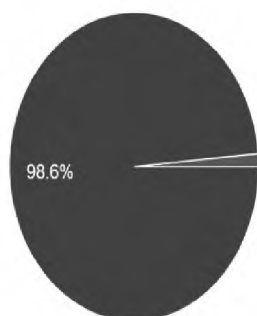
2024年12月21日(土)14:30-17:30に渋谷キャンパスで対面形式で開催した。本イベントの目的は「主体的に活動する大学生の姿を見て、大学入学へのモチベーションを高める」であり、主な対象者は指定校推薦や総合型選抜での入学が決定している高校3年生、体験に来た高校1、2年生の合計74名が参加した。

コンテンツは経済学部教員による学部紹介、学科・アクティブラーニング型授業の紹介、模擬授業、国大ツアー等を行った。アイスブレイクでは、E-Tourの2回目と3回目の主な対象者に合わせ実施する内容を変更した。



Q13. アクティブラーニング型の授業をもっと受けてみたいですか

74件の回答



- 受けたい
- 受けたくない

(周りの反応)

E-Tour 開始前から学生スタッフや同じグループの高校生との会話が弾んでおり、模擬授業では積極的に参加してくれている様子であった。参加後のアンケートもほとんどの方が「受けたい」と回答している。

後記 (感想)

第2回目との開催日時が1週間と短かったが、2回目に出た問題を改善し、無事に成功させることができた。私は初めてE-Tourに参加し、初めてリーダーの役割を担った。大変苦戦したが、やりがいも多くスタッフ含め100人以上の人を動かす大変さを学び、準備段階やメンバー間の連携が非常に大切だと学んだ。

(経営学科3年 福山はな)

経済学部ゼミ成果発表会

2024年12月15日(土)の12:00~16:30に、経済学部ゼミ成果発表会が開催された。5号館の4教室で開催し、12ゼミ40グループが発表した。各教室、3部構成で、1グループあたり15分の発表と10分の質疑応答が行われ、スムーズに進行していた。

今年度は、質疑応答の形式をコミュニケーションアプリ「LINE」のトークルームを使った形式に変更した。例年と比較して多くの質問が出て、昨年度と比較してもより活発な質疑が行われた印象である。

当日は、5号館の各教室前でポスターセッションを同時開催した。こちらも多くの1年生に見てもらうことができた。

発表の後に若木タワー18Fで行われた懇親会には、50名ほどに参加いただき、会場では盛り上がりを見せた。



各教室、時間帯によって聴衆の数にはばらつきはあったものの、1年生も、その他ご来場された方も大変満足していただくことができた。質疑応答の形式についても、先生方から高く評価していただいた。



後記(感想)

前年度の運営経験を活かし、新たな企画立案・進行やスムーズな準備・運営を行うことができた。一方で、会場の動線など、改善の余地のある部分も見られたという印象である。来年度は今年度の経験と反省点を踏まえ、さらに良い企画立案・運営を目指す。

(経営学科3年 山形駿太)

広報部活動報告

はじめに

当書面では、経済学会学生委員会広報部の2024年度の活動内容を報告する。

広報部員紹介

今年度は以下11名のメンバーで活動した。

経営学科	3年	山形駿太	
経済学科	4年	若松大夏	
経営学科	4年	大野碧海	
経営学科	2年	浅野禾穂	
経営学科	2年	長野拓真	
経営学科	2年	吉見倭斗	
経営学科	1年	江森崇人	
経営学科	1年	藤田美優	3年 山中日菜乃（後期より留学のため不参加）
経済学科	1年	山本博人	2年 上田真央（後期より、副委員長）

【前期】

広報部活動目標

「学生委員会をFA並に身近な存在にできるような広報活動をする」

SNS活動の目標

定性目標「現役生にとって最も有益な情報源となるアカウントにする」

定量目標「フォロワー800人」

【後期】

広報部活動目標

「学生委員会の仲間になりたいと思ってもらえるような広報活動をする」

SNS活動

定量目標「フォロワー1,000人」

月別活動内容

4月

- ・ 新入生歓迎会開催予告
- ・ 國學院の食べログ(～6月)
- ・ キャンパスツアー(～6月)

5月

- ・ ゼミ個別ブース相談会開催予告・ゼミ紹介投稿物

6月

- ・ ゼミ個別ブース相談会(2次)

9月

- ・ E-Tour 開催予告・報告

10月

- ・ 絆づくりプロジェクト開催予告・参加者の声投稿

12月

- ・ 開催予告・ゼミ紹介動画投稿



プロジェクトの開催告知・報告・コンテンツ投稿ほか、國學院の食べログ(学生食堂紹介)やキャンパスツアーなど、持続して投稿できるコンテンツも展開し、アカウントの価値上昇と認知拡大を狙った。

総括

今年度は人数も増えたため、より機動的な活動をすることができた。具体的には、サブアカウントを活用した投稿物の確認体制確立、プロジェクト告知方法の多様化、定期的な投稿物の投稿を行うことができ、委員会内での広報部の存在意義を高めることができ、運用するInstagramのフォロワーも429人増の915人まで増やすことができた。次年度はさらなるフォロワー獲得を目指すとともにこのフォロワー数を活かしたコンテンツ展開を行いたい。

(経営学科3年 山形駿太)

学生委員長のことば

経済学会学生委員会
2024年度委員長 鈴木 羽奈

今年度の学生委員会は、「活気ある経済学部に」を目標に掲げ、活動してまいりました。今年度は、昨年度の取り組みを活かしながら、新しい挑戦を積極的に行い、多くの成果を上げることができたと感じています。

まず1つ目の成果は外部・内部双方における連携の強化です。外部に向けては、広報部がInstagramでの投稿頻度を増やし、経済学部に関連する情報や学生委員会主催イベントの告知を積極的に発信しました。その結果、フォロワー数が400名以上増加し、より多くの方々に経済学部の魅力を伝えることができました。また、ゼミ個別ブース相談会、絆づくりプロジェクトやゼミ成果発表会では、各ゼミ代表者との綿密な連携とこまめなコミュニケーションを通じて、イベントを円滑に遂行することができました。内部においては、委員会メンバーの増加に伴い、4年生主催のスキルアップワークショップを開催し、委員全体のスキル向上を図りました。また、休止していた「絆づくりプロジェクト」を再開することで、経済学部のイベントの充実化を図りました。

次に、2つ目の成果として挙げられるのは当事者意識の向上です。

各イベントの会議では、活動の目標を再確認し、意義や目的を明確化することを意識しました。その結果、委員全体が一体感を持ち、積極的に活動に取り組むことができました。また、委員会内の課題を明らかにし、1~4年生の学年の壁をなくすためのグループ構成やアイスブレイクを積極的に実施しました。これにより、委員会内の団結が深まり、すべてのメンバーが同水準のアウトプットを出せるよう努めました。

これらの取り組みにより、委員会全体の連携強化と意識向上が実現し、経済学部全体の活気を高める一助となれたのではないかと考えています。

最後になりますが、日頃から学生委員会の活動を支えてくださった経済学部の教員・職員の皆さま、そして各ゼミ代表をはじめとする経済学部生の皆さま、さらに共に活動してきた学生委員の皆さまに、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

今後とも学生委員会をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

学生委員長のことば

経済学会学生委員会
2024 年度副委員長 上田 真央

2024 年度の学生委員会では、「活気ある経済学部に」という目標のもと、活動を行ってまいりました。今年度は全てのイベントを対面で開催し、経済学部の活気ある姿を多くの方々に伝えるため様々な取り組みを行いました。

一つ目は活動の知名度向上と発信力の強化です。去年から力を入れていた Instagram の運用では、イベント開催時の告知だけではなく、國學院大学での学生生活に役立つ新たなコンテンツを積極的に配信しました。これまではイベントの際にフォロワーが増加し、その後イベント終了と共にフォロワーが減少するという、フォロワー数の変動が課題となっていました。しかし、イベントがない時期にもコンテンツを発信することでフォロワーの維持にも繋がり、安定的にフォロワーを増やすことができました。この取り組みにより、昨年度から二倍に増加し、大きな成果を上げることが出来ました。

二つ目はプロジェクト運営に対する理解を深めるワークショップの開催です。このワークショップを通じて、プロジェクトの進行方法やイベントの概要、取り組み方について学ぶことができました。実際にプロジェクトに参加する前に、問題解決のアプローチについてもレクチャーを受け、実践にすぐに活かせる具体的な知識を得ることが出来ました。メンバーそれぞれの取り組み方に少しばらつきがあった中で、全員が同じ方向を向いて取り組むことができるようになりました。その結果、プロジェクトの進行方向が統一され、委員会全体が一体となって活動を進めることができました。各イベント終了後に実施した参加者アンケートでは、すべてのイベントにおいて高評価をいただくことができ、参加者からも好意的な意見を得ることが出来ました。委員会内での取り組みが目的として開催されましたが、結果的に経済学部全体に非常に良い影響を与えたと感じております。

2025 年度は、これまでの活動をさらに進展させると共に、積極的に新たな取り組みに励みより一層成長した学生委員会の新たな姿をお見せできるよう日々邁進して参ります。今後も学生委員会の歩みを見守ってくださいますよう、よろしく願いいたします。

最後に、日頃から学生委員会の活動を支えてくださった経済学部の教員・職員の皆さま、各ゼミの代表をはじめとする経済学部生の皆さま、そして学生委員の皆さまに、この場をお借りして心より感謝を申し上げます。

令和6年度の学生委員会の活動を振り返って

令和6年度学生委員会担当教員

中田 有祐、芳賀 英明

本年度、学生委員会は、経済学部や経済学会に協力する形で以下のイベントの実施および実施補助をしました。その他、SNS（Instagram）にて経済学部に関する情報の発信も随時行っています。

・学部学生を対象としたイベント

- (1) 新入生歓迎会（4月）
- (2) ゼミ個別ブース相談会（5月、6月）
- (3) 絆づくりプロジェクト（10月）
- (4) 経済学部ゼミ成果発表会（12月）

・高校生を対象としたイベント

- (5) 経済学部リアル体験ツアー（E-Tour）（第1回：9月、第2回：12月、第3回：12月）

※（4）経済学部ゼミ成果発表会は、受付・司会補助・懇親会の仕切り等の実施補助を担当。

※イベントの詳細は、本誌内の各ページをご参照ください。

令和6年度も前年に続き委員長2名体制で、学生委員会に所属する約45名の学生が主体的に各イベントの実施に向けて取り組みました。コロナ禍も明け、昨年度よりほぼすべてのイベントを対面で実施しており、本年度は、コロナ禍で潰えていた対面でのイベント実施ノウハウがふたたび蓄積されてきた感があります。また「絆づくりプロジェクト」を一昨年ぶりに復活させました。以下に、令和6年度の総括と次年度に向けた課題を示します。

令和6年度は、「活気ある経済学部」に」という組織の年度目標を掲げ、その実現に向けて「報・連・相の徹底」、「目標の明確化」、「連携の強化」、「互いを大切に」という行動指針のもと活動しました。特に、過年度より課題として挙げられていた広報の強化に取り組むべく、SNSを活用しイベントの積極的なPRを行いました。その結果、参加者数も増え、各イベントは昨年度以上の盛り上がりを見せていたように思います。また、組織内部では、1・2年生が増えたため、上級生から下級生へのスキル・ノウハウの伝達・継承も活発に行われていました。

次年度に向けては、引き続き広報の強化に努めることが第一となりそうです。また、本年度実施したイベントの継続開催のほか、旧来よりも所属学生数が増え組織全体の余力が増しているため、休止しているイベントの復活や新規イベントの実施も検討しています。組織内部では、所属学生数が増えている分、個人のタスク量や組織への向き合い方に差が生じてきており、組織として全体をまとめることがより重要になっています。委員長だけでなく複数の上級生が積極的に、組織をまとめるための動きをとることが求められそうです。